

北海道幌延視察

7月28日(火)に北海道幌延深地層研究センターの視察を行いました。

■視察目的

- 1、使用済核燃料の問題解決の加速に向けて、
 - ①地層処分(高レベル放射性廃棄物の最終処分)への理解を深める。
 - ②生団連としてできることを一緒に考える。
- 2、地層処分技術に関する研究の現状を知る。
- 3、会員同士の交流を図り、充実した委員会議論に繋げる。

■スケジュール

- 7月28日(火)
- ・幌延深地層研究センター(視察①)
 - ・オトンレイ風力発電所(視察②)

■参加者

13企業/団体18名、50音順
 NPO法人関東シニアライフアドバイザー協会
 大阪鋼線鋼索連合会
 株式会社グローバルテールサプライ
 公益財団法人鯉淵学園、埼玉県地域婦人会連合会
 株式会社ジョイマート、生団連事務局
 株式会社ゼンショーホールディングス
 全日本食品株式会社、株式会社高島屋
 東京都地域婦人団体連盟、株式会社万城食品
 明治労働組合



▲視察メンバー 幌延深地層研究センターにて

視察① 幌延深地層研究センター

放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究の現状について理解を深めるため、視察を行いました。

■事業内容

高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発を行うことにより、地層処分の技術的な信頼性を実際の深地層での試験研究等を通じて確認することを目的としている。

■視察のPoint

- ①東立坑、換気立坑、西立坑が深度500mにそれぞれ到達し、深度500m調査坑道も含めた地下施設整備工事が2026年1月に完了した。
- ②日本の代表する地層は主に結晶質岩(花こう岩)と堆積岩であり、幌延深地層研究センターでは堆積岩の緩衝能力の検証を行っている。
- ③「研究センター」は北海道及び幌延町と以下の約束をしている。
 - ・放射性廃棄物を持ち込むことや使用することはない。
 - ・研究終了後は、地下施設を埋め戻すものとする。
 - ・研究実施区域を放射性廃棄物の最終処分場とせず、幌延町に放射性廃棄物の中間貯蔵施設を将来とも設置しない。



▲地下の坑道の様子

視察② オトンレイ風力発電所

3km以上の長さにわたって並んでいる28基もの大型風車を見学しました。

■特徴

- ・年間発電量は約5,800万kWh(幌延町全体消費電力の約2倍にあたる)。
- ・リプレイス事業が検討されており、2027年3月末に停止を予定していたが延期となり、28基の風車は2029年3月まで運転継続予定。
- ・運転開始から20年以上が経過した『既設風力発電所を更新』することにより、風況に恵まれた当該地域における風力発電所の継続的な運用を目指す。今後も地域のエネルギー資源を活用して環境負荷の小さい風力発電事業を推進し、
 - 『我が国のエネルギー自給率の向上への貢献』
 - 『地域産業の活性化への寄与』
 を目的としてリプレイスを検討している。

※参照)幌延風力発電株式会社HPより



▲道路沿いに並ぶ大型風車